

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2392300071		
法人名	有限会社 サンコーポレーション		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム ねこの手		
所在地	愛知県瀬戸市西原町1丁目12番地		
自己評価作成日	令和元年9月9日	評価結果市町村受理日	令和元年11月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392300071-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392300071-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
聞き取り調査日	令和元年10月8日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外観は、和の雰囲気をもとに瓦屋根や格子の塀を取り入れ、入居者様に懐かしさを感じて頂ける様な造りとなっている。慣れ親しんだ生活の継続、自信(役割)・喜びを感じる暮らしを運営理念とし、「その方」にとっての「心地よさ」を目標としている。出来る事は無理のない範囲で行って頂き、職員は見守りながら介護・支援をしている。入居者様同士の信頼関係を築き、普通の生活が出来る様な家庭的な環境を作っている。又、医療的な支援が必要な方にも対応しております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンス等で確認、話し合いを行っている。個々の入居者がその方らしく心地よさを感じられるようにミーティングで情報を共有しケアに繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節や天候に留意し、事業所周辺を散歩したり近所のスーパーへ買い物に出かけている。秋祭りには地域の方に参加の呼びかけを行い交流を深めている。。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	秋祭りを開催し地域の方々や子供たちとの交流を図っている。。月数回ボランティアの方に来て頂き交流を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し市職員、包括支援センター、民生委員、入居者家族、地域の方々に入居者の状況・活動状況を報告し助言・情報を頂いている。「ねこの手通信」や行事予定のチラシを回覧板で回している。。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席頂き意見やアドバイスを頂いている。必要時には市役所窓口に向って相談・報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営推進会議の中で「身体拘束委員会」を開催し現状の報告・助言を頂く様にしている。施設内研修を行い身体拘束ゼロに向けての取り組みを全職員に周知している。現在、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを用いて施設内研修を行い全職員に周知徹底を図っている。身体面の観察と心理的虐待となる不用意な発言が無いように注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所でも成年後見人制度を利用されている方もおられ、職員に対し制度の理解についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書と重要事項説明書を読み上げ、両方で不明な点がないか確認しながら契約に関する内容を理解・納得を頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の要望や意見は日常の会話の中から聞き取り、家族に対しては面会時や行事等の来所時に職員から声を掛け、意見・要望をお伺いしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り後やミーティングや合同カンファレンスに於いて職員一人一人が自由に意見や提案を出しやすい環境作りを心掛けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は可能な限り職員に声を掛け、事業所や職員の現状把握に努めている。必要時には個々に面接を行い、意見・要望等を確認している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域での研修会・勉強会や認知症実践者研修・管理者研修等勤務に支障がない範囲で参加できるように計画している。又、介護福祉士資格取得に向け研修受講を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	瀬戸介護事業連絡協議会の総会や研修会に参加し他事業所職員と情報交換をする機会を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネジャーと現場職員がご本人と面談し不安に思っている事や要望等を傾聴している。日々の様子も留意し安心した生活が送って頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に困っていることや不安等を傾聴し、その後の信頼関係が築けるよう努めている。ご家族の面会時には入居者の様子をお知らせし、ご家族の思いを知るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の話しを傾聴し、状況に合わせたサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と入居者が一緒に掃除・シーツ交換・食器洗い等を安全を考慮して行っている。ティータイムにはコーヒー作りを手伝って頂いたり、その方ができる作業は手伝って頂けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には挨拶に伺い近況を報告している。外出・病院受診・物品購入等ご家族の負担にならない可能な範囲で協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の散歩や買い物で地域の人との馴染みができるように努めている。事業所近隣のお祭りや行事に参加し地域との交流を深めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出・レクリエーションを通じ入居者同士の関わりを持てるようにしている。入居者の性格を把握し、職員間で話し合い食事席を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同系列の事業所へ移行された場合は情報の提供やご本人・家族との関係は継続している。入院された方については看護サマリーにより情報提供を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中で入居者の希望や要望等を聞き取り、レクリエーションに取り入れるように努めている。ケア別の早見表を作成し日付けが書けるようになっている。伝達ノートと併用し早く正確に振り返りができるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族との話し合いの場を設け情報提供を頂きアセスメント表を作成している。表をもとに職員間で情報を共有し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態を観察しケア記録に残し状態の把握に努めている。状態の変化等必要な事はケア別早見表を変更し、伝達ノートに記入したり申し送りをして情報共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じてご本人・ご家族を含め担当者会議を開いている。職員の意見を含めたうえで入居者がより良く過ごせるような介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各職員が日々のケア記録やケア別早見表を確認し情報を共有している。状況の変化等必要に応じカンファレンスを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じて買い物や通院介助を行っている。面会時にはご本人・ご家族の希望や要望を確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる紙芝居・合唱・踊り等楽しみを提供して頂いている。地域のお祭りにも参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週毎に協力医療機関の医師に往診をして頂いている。かかりつけ医がいる場合は個別に病院受診をして頂いている。緊急時や病状に変化がある場合は電話連絡等で医師の指示を頂ける体制をとっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝夕に看護師が入居者の状態を確認したり変化を看護師に伝えるようにしている。病状に変化のある場合は医師の指示に基づき看護師が処置等を行うと共に必要に応じ医療機関への受診を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを作成し入院先に情報の提供を行っている。退院時には病院側と情報交換を行い、得られた情報を職員間で共有し退院後のケアに役立てている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護を希望される場合は、終末期をグループホームで迎えて頂く体制をとっている。主治医と看護師、ケアマネ、介護職員が話し合い、ご本人・ご家族の希望・要望に沿い方針を明確にしてケアを提供している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時及び緊急対応マニュアルを作成し職員に周知している。(急患発生時の対応フローチャート等)		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。地域の方々には事前に避難訓練実施についてのお知らせを配布し、訓練への参加をお願いしている。夜間想定訓練も実施し、地域の防災避難訓練に職員が参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の能力や性格を把握し、その方に応じた言葉掛けや対応を行っている。施設内研修や合同カンファレンスに於いてプライバシーや人格保護の勉強会を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が意思表示しやすい関係作りや対応に努めている。自己決定が困難な方には表情や態度から本人の思いを汲み取れる様に入居者と接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日のスケジュールは設けているが、状況に合わせた柔軟な対応ができるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月2回の理容サービスを受けられるよう支援している。更衣時には衣類の準備を一緒に行うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや食器洗いを一緒に行っている。食事を楽しみにして頂けるようにホワイトボードにメニューを記載しお知らせしている。昼食会等も開催し入居者に希望を聞きながらメニューを決め一緒に準備している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事提供を行っている。食事量は主食・副食に分けて記録している。水分補給はいつでも飲んで頂けるようホールのカウンターにポットを設置している。水分量の少ない方には声掛けを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け誘導を行っている。援助が必要な方には義歯の洗浄・消毒・口腔内の確認を行っている。月2回の歯科医師による訪問歯科診療を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成しパターンの把握に努めている。援助が必要な方には声掛け・誘導を行っている。排泄を失敗した方にはプライバシー・尊厳に努め周囲にわからないように配慮して対応するよう努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や体を動かすレクリエーションを行い十分な水分補給をして頂き、腸の働きを良くする等の工夫をしている。主治医の指示のもと、下剤を服用し排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週2回入浴して頂いているがその方の状態により変更している。個々の希望、能力に応じた方法で入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に応じて休息して頂いている。就寝時間はその方の生活パターンにあわせている。昼夜逆転にならないよう日中の生活を注意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用中の薬剤情報をファイルし職員全員が把握、確認できるようになっている。副作用については看護師から情報がもらえる体制が整っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近所のスーパーや飲食店に職員と一緒に出かけ買い物をしたり飲食の雰囲気を楽しんで頂けるよう支援している。又、嗜好を伺ったりして誕生日会を定期的に行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節天候に応じ散歩や近所のスーパーに出掛ける様にしている。花見に行ったり喫茶店でティータイムを過ごしたりしている。近所のお祭りにも参加している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からお預かりしたお金を持参し買い物や飲食時に支払って頂く様に支援したいが、現状は支払いができる方がいない為職員が代行して支払う事が殆どである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・友人への手紙や年賀状を作成し送る支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	遮光カーテンを設置し直射日光が当たらない様にしている。エアコンで温度調節し空気清浄機や加湿器を設置し環境保持に努めている。居室やホールにはレクリエーションで作成した作品を展示し、散歩時に摘んできた花を飾ったりして季節を感じられるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で一人になる以外はホールで自由に過ごして頂けるよう配慮している。車椅子で自走する方の動線には障害になるような物がないように注意している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族が希望する家具やテレビ等持ち込み可能としご本人が過ごしやすい環境作りをしている。地震や安全対策で家具の高さ等には注意を払っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗面台・浴室には手すり、トイレには手すり・肘掛けを設置し安全に配慮した構造になっている。残存能力を低下させず、できることは行って頂くよう個人の能力を把握し、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		